

2 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要

○2008/09年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、昨年度の需給ひっ迫と価格高騰により世界的に増産意欲が高まり作付が増加している中、これまでの天候が順調に推移したことなどから、世界的な生産量の増加が見込まれている。

需要面では、堅調な食用の需要に加え、昨年度の価格の高騰等により抑制された飼料用需要が拡大し、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も回復し、世界の小麦需給の引き締めりは緩和すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、作付時期の価格高騰による世界的な増産意欲の高まりや、これまでの天候が比較的良好であり昨年度の干ばつや天候不順による単収低下も回復したことなどから、EU、ロシア、米国等で増産となり、世界全体では前年度より72.7百万トン増加（11.9%）し、682.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.1百万トン下方修正されており、国別にはアルゼンチン、EUが下方修正された。

【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にEU、米国、ロシア等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より36.1百万トン増加（5.8%）し、653.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.1百万トン下方修正されており、国別には米国が下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、8.5百万トン増加（7.4%）し、123.9百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではウクライナ、EU、オーストラリア等で輸出量の増加が、昨年輸出量が急増した米国や生産量の減少が見込まれるアルゼンチンで輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、モロッコ、アルジェリア等で輸入量の増加が、EU等で輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.5百万トン上方修正されており、国別にはロシアの輸出量、EUの輸入量が上方修正され、アルゼンチンの輸出量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、米国、ロシア等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より29.0百万トン増加（24.3%）し、148.4百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も22.7%に回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.0百万トン上方修正されており、国別には米国、EUが上方修正され、ロシアが下方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	596.1	610.2	682.9	▲ 1.1	11.9
EU-27	124.9	119.4	150.5	▲ 0.4	26.0
中国	108.5	109.3	113.0	-	3.4
インド	69.4	75.8	78.4	-	3.4
米国	49.2	55.8	68.0	-	21.9
ロシア	44.9	49.4	63.0	-	27.5
カナダ	25.3	20.1	28.6	-	42.7
オーストラリア	10.8	13.0	20.0	-	53.4
消費量	616.7	617.8	653.9	▲ 2.1	5.8
うち飼料用	106.2	94.5	123.1	▲ 1.3	30.2
EU-27	125.5	117.7	131.5	-	11.7
中国	102.0	104.0	107.0	-	2.9
インド	73.4	75.7	77.6	-	2.5
ロシア	36.4	37.7	43.5	-	15.4
米国	30.9	28.6	34.3	▲ 0.9	20.0
パキスタン	21.9	22.4	22.6	-	0.9
トルコ	16.7	16.8	16.9	-	0.6
貿易量	111.2	115.4	123.9	0.5	7.4
(輸出)					
米国	24.7	34.4	27.2	-	▲ 20.9
カナダ	19.4	16.1	19.0	-	17.9
オーストラリア	8.7	7.5	13.0	-	73.3
EU-27	13.9	12.2	19.0	-	55.4
ロシア	10.8	12.2	15.0	1.0	22.7
アルゼンチン	10.5	10.5	4.3	▲ 1.0	▲ 59.0
ウクライナ	3.4	1.2	9.0	-	625.8
(輸入)					
エジプト	7.8	7.3	7.7	-	5.5
ブラジル	7.6	7.0	7.0	-	0.0
アルジェリア	5.5	4.9	5.9	-	20.7
インドネシア	5.0	5.6	5.2	-	▲ 6.4
日本	5.5	5.7	5.7	-	▲ 0.8
EU-27	5.1	6.9	6.0	1.0	▲ 13.4
モロッコ	2.4	1.8	4.2	-	132.7
期末在庫量	127.0	119.4	148.4	1.0	24.3
中国	38.5	41.0	45.0	-	9.8
米国	12.4	8.3	17.8	0.9	114.3
EU-27	14.0	10.4	16.4	0.6	57.6
オーストラリア	4.4	3.9	4.5	-	16.2
インド	4.5	6.4	7.2	-	11.7
ロシア	2.4	2.2	7.1	▲ 1.0	222.3
カナダ	6.8	4.8	6.9	-	43.8
期末在庫率	20.6%	19.3%	22.7%	0.2	3.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、前年度より12.2百万トン増加（21.9%）し、68.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、とうもろこしの価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より5.7百万トン増加（20.0%）し、34.3百万トンとなる見込みである。

輸出量は、昨年度は干ばつや天候不順等により輸出が低迷した主要国の輸出量が本年度は回復すると見込まれ、米国への集中が弱まることから7.2百万トン減少（▲20.9%）し、27.2百万トンとなる見込みである。

この結果、昨年度大幅に減少した期末在庫量は、9.5百万トン増加（114.3%）と大幅に積み増しされ、17.8百万トンとなり、期末在庫率も29.0%（15.8ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008年9月から11月の消費量が予想より低く、また2009/10年度冬小麦の作付面積が予想より低く種子用消費量が少なくなったことなどから、消費量が0.9百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量は0.9百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度冬小麦の作柄は、優良が3%と前年度の同時期や最終に比べ低くなっているものの、優良～普通までの合計では82%と前年度の最終の76%を6ポイント上回っている。また、作付面積は、2008/09年度より1.7百万ha減少（▲9%）し、17.0百万haとなっている。

冬小麦の主要産地での積雪が少なく、寒気による凍害が発生しやすい状況となっている。また、テキサス州中部では干ばつとなっていることもあり、今後の天候に注視が必要である。

2008/09年度の春小麦の作柄については、優良が14%と前年最終と同じ値となっている。また、優良～普通までの合計は83%と前年度の最終の87%より4ポイント低下している。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース60.0%）
世界の生産量シェア 4位（2008/09年度 9.2%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度22.0%）

表－2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.2	55.8	68.0	-	21.9
消費量	30.9	28.6	34.3	▲ 0.9	20.0
うち飼料用	3.2	0.4	6.3	▲ 0.8	1426.8
輸出量	24.7	34.4	27.2	-	▲ 20.9
輸入量	3.3	3.1	3.0	-	▲ 2.6
期末在庫量	12.4	8.3	17.8	0.9	114.3
期末在庫率	22.3%	13.2%	29.0%	1.8	15.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.94	20.64	22.54	-	9.2
単収(t/ha)	2.60	2.70	3.02	-	11.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米國小麦の作柄

〔作柄（2009/10年度冬小麦：主要18州、2008/09年度春小麦：主要6州）〕

		単位:%				
		優良	良	普通	不良	極不良
冬小麦	2009/10	3	52	27	6	2
	前年度同時期	5	39	37	13	6
	前年度最終	10	36	30	14	10
春小麦	2008/09	14	41	28	12	5
	前年度同時期	14	52	21	8	5
	前年度最終	14	52	21	8	5

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」春小麦の作柄については8月24日現在のデータ、冬小麦の作柄については11月23日現在のデータである。

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、作付けの増加などから前年度より8.5百万トン増加(42.7%)し、28.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.5百万トン増加(23.5%)し、7.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より2.9百万トン増加(17.9%)し、19.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、2.1百万トン増加(43.8%)し、6.9百万トンとなり、期末在庫率も25.8%(4.4ポイント増)とやや回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度は生育の遅れによって収穫が遅れていたが、無事終了した。

ウ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる減産からほぼ回復し、前年度より7.0百万トン増加(53.4%)し、20.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.3百万トン増加(4.0%)し、6.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復から5.5百万トン増加(73.3%)し、13.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.6百万トン増加(16.3%)し、4.5百万トンと積み増しされるが、期末在庫率は23.0%(5.1ポイント減)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

小麦の収穫は、ほぼ終了している。収穫直前の11月の降雨によって小麦の品質低下が発生しており、12月中旬に小麦生産地全般に降った雨によって、さらなる品質低下が懸念されている。特に、クイーンズランド州では、品質低下の影響が大きいとみられている。

〔我が国の輸入先国シェア 2位 (2007年数量ベース21.5%)
世界の生産量シェア 6位 (2008/09年度 4.2%)
輸出量シェア 2位 (2008/09年度15.3%)〕

表-3 カナダの小麦需給 (市場年度: 8月~翌年7月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.3	20.1	28.6 (28.6)	-	42.7
消費量	9.0	6.3	7.8 (8.5)	-	23.5
うち飼料用	4.8	2.1	3.2 (3.9)	-	53.8
輸出量	19.4	16.1	19.0 (18.0)	-	17.9
輸入量	0.3	0.4	0.3 (0.0)	-	▲ 23.1
期末在庫量	6.8	4.8	6.9 (6.9)	-	43.8
期末在庫率	23.9%	21.5%	25.8% (26.0%)	-	4.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.68	8.64	10.03 (10.03)	-	16.1
単収(t/ha)	2.61	2.32	2.85 (2.85)	-	22.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (December 12, 2008)」

〔我が国の輸入先国シェア 3位 (2007年数量ベース18.0%)
世界の生産量シェア 7位 (2008/09年度 2.9%)
輸出量シェア 5位 (2008/09年度10.5%)〕

表-4 オーストラリアの小麦需給 (市場年度: 10月~翌年9月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	10.8	13.0	20.0 (20.0)	-	53.4
消費量	7.4	6.2	6.5 (6.9)	-	4.0
うち飼料用	4.7	3.5	3.8 (3.8)	-	7.1
輸出量	8.7	7.5	13.0 (12.3)	-	73.3
輸入量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 27.3
期末在庫量	4.4	3.9	4.5 (…)	-	16.3
期末在庫率	27.3%	28.1%	23.0% (…)	-	▲ 5.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.80	12.35	13.00 (13.55)	-	5.3
単収(t/ha)	0.92	1.06	1.54 (1.47)	-	45.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (December 2008)」

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における10%の生産調整面積が2008/09年度の作付けにおいて適用されない中で、作付時の価格高騰による作付面積の増大や天候に恵まれたことによる単収の増加などにより、前年度より31.1百万トン増加(26.0%)し、150.5百万トンと過去最高を記録する見込みである。

消費量は、とうもろこし等の価格高騰により飼料用需要増加が見込まれることから前年度より13.8百万トン増加(11.7%)し、131.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから6.8百万トン増加(55.4%)し、19.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は6.0百万トン増加(57.6%)し、16.4百万トンとなり、期末在庫率も10.9%(2.9ポイント増)と回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、フランス政府の公式統計データを反映し、生産量が0.4百万トン下方修正された。また、ウクライナから低品質・低価格の小麦を輸入する量が増加していることから、輸入量が1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.6百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の小麦の収穫は終了した。2009/10年度の冬小麦は冬季の休眠中である。天候は全般的に乾燥しており、積雪がほとんどないため、寒さによって枯死する比率が例年より上昇する可能性が懸念されている。

【貿易情報】穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

オ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、良好な天候から単収が増加し、前年度より3.7百万トン増加(3.4%)し、113.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の増加から前年度より3.0百万トン増加(2.9%)し、107.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.8百万トン減少(▲29.6%)し、2.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は4.0百万トン増加(9.8%)し45.0百万トンとなり、期末在庫率も41.3%(2.9ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の小麦の収穫は終了している。2009/10年度については、冬小麦の産地では12月の降水量が平年の30~80%しかなかった場所が多く、冬小麦の収穫量の減少と品質低下が発生すると見込まれている。1月7日時点では、主要産地である河南省、安徽省、河北省、山東省、陝西省および甘粛省の6省で、合計540万ヘクタール分の冬小麦が深刻な乾燥の影響を受けている。今後も雨不足が続き、さらに強風(土壌湿度の低下が加速される)が予測されており、乾燥が一層深刻化する見通しとなっている。

【貿易情報】2007年12月に輸出還付を取り消し2008年1月から輸出税を賦課しているが、輸出税率が2008年12月より引き下げられている(20%→3%)。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

〔世界の生産量シェア1位(2008/09年度22.1%)
輸出量シェア2位(2008/09年度15.3%)〕

表-5 EU-27の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	124.9	119.4	150.5 (150.8)	▲ 0.4	26.0
消費量	125.5	117.7	131.5 (130.7)	-	11.7
うち飼料用	60.2	52.4	64.0 (59.1)	-	22.0
輸出量	13.9	12.2	19.0 (18.9)	-	55.4
輸入量	5.1	6.9	6.0 (6.3)	1.0	▲ 13.4
期末在庫量	14.0	10.4	16.4 (17.5)	0.6	57.6
期末在庫率	10.1%	8.0%	10.9% (11.7%)	0.4	2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.47	24.66	26.77 (…)	-	8.6
単収(t/ha)	5.10	4.84	5.62 (…)	▲ 0.02	16.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC「Grain Market Report (27 November 2008)」

(世界の生産量シェア2位(2008/09年度16.5%))

表-6 中国の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	108.5	109.3	113.0 (112.5)	-	3.4
消費量	102.0	104.0	107.0 (…)	-	2.9
うち飼料用	4.0	6.0	9.0 (…)	-	50.0
輸出量	2.8	2.8	2.0 (2.1)	-	▲ 29.6
輸入量	0.4	0.1	0.0 (0.1)	-	▲ 40.0
期末在庫量	38.5	41.0	45.0 (…)	-	9.8
期末在庫率	36.7%	38.3%	41.3% (…)	-	2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.61	23.72	24.00 (…)	-	1.2
単収(t/ha)	4.59	4.61	4.71 (…)	-	2.2

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC「Grain Market Report (27 November 2008)」

カ インド

【需給状況】

インドの生産量は、前年度より2.6百万トン増加（3.4%）し、過去最大の78.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.9百万トン増加（2.5%）し、77.6百万トンとなる見込みである。

輸入量は前年度から1.9百万トン減少（▲100.0%）し、0.0トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.8百万トン増加（11.7%）し、7.2百万トンとなり、期末在庫率も9.2%（0.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

インドにおける小麦の収穫は、4月～5月に順調に終了した。2009/10年度の小麦の作付面積は、2009年1月2日現在で前年を5万2000ha上回り、2626万6000haとなっている。

【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されており現在も継続している。なお、2008年9月に種子用の小麦に限り輸出禁止が解除された。

キ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が少なかったことや、生育期に天候に恵まれたことなどから、前年度より13.6百万トン増加（27.5%）し、63.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より5.8百万トン増加（15.4%）し、43.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから2.8百万トン増加（22.7%）し、15.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、4.9百万トン増加（222.1%）し、7.1百万トンとなり、期末在庫率も12.1%（7.7ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、供給量が多く価格競争力が強いことから、輸出量が1.0百万トン上方修正された。これに伴い、期末在庫量が1.0百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ロシア連邦全体の2008/09年度の収穫は終了している。なお、生産量が非常に多かったため、国内における保管倉庫不足が問題となっている。

2009/10年度の冬小麦は休眠に入っており、天候が望ましくに移り始めたため越冬条件は良好である。

【貿易情報】

7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア3位（2008/09年度11.5%））

表－7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	69.4	75.8	78.4 (78.4)	-	3.4
消費量	73.4	75.7	77.6 (…)	-	2.5
うち飼料用	0.3	0.2	0.1 (…)	-	▲ 50.0
輸 出 量	0.2	0.1	0.1 (0.5)	-	0.0
輸 入 量	6.7	1.9	0.0 (0.1)	-	▲ 100.0
期末在庫量	4.5	6.4	7.2 (…)	-	11.7
期末在庫率	6.1%	8.5%	9.2% (…)	-	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.40	28.00	28.00 (…)	-	0.0
単収(t/ha)	2.63	2.71	2.80 (…)	-	3.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC「Grain Market Report (27 November 2008)」

（世界の生産量シェア5位（2008/09年度 9.2%） 輸出量シェア4位（2008/09年度12.1%））

表－8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.4	63.0 (62.0)	-	27.5
消費量	36.4	37.7	43.5 (…)	-	15.4
うち飼料用	14.1	15.1	19.5 (…)	-	29.6
輸 出 量	10.8	12.2	15.0 (14.0)	1.0	22.7
輸 入 量	0.9	0.3	0.4 (0.2)	-	17.6
期末在庫量	2.4	2.2	7.1 (…)	▲ 1.0	222.1
期末在庫率	5.0%	4.4%	12.1% (…)	▲ 2.0	7.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.70	24.50	26.70 (…)	-	9.0
単収(t/ha)	1.89	2.02	2.36 (…)	-	16.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC「Grain Market Report (27 November 2008)」

ク アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、乾燥天候の影響による作付けの減少や生育不良などから前年度より6.8百万トン減少（▲41.7%）し、9.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（0.9%）し、5.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから6.2百万トン減少（▲59.0%）し、4.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.3百万トン減少（▲41.2%）し0.4百万トンとなり、期末在庫率も4.1%（0.2ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、乾燥天候が続いていることから単収が下方修正され、生産量が1.0百万トン下方修正された。また、生産量の下方修正と、政府によって輸出が制限されていることから、輸出量も1.0百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量は修正されず、期末在庫率が0.4ポイント上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

小麦の収穫は終了しており、収穫進捗率は1月16日時点で100.0%となっている。

【貿易情報】

輸出税に関する新たな制度の導入を巡り農牧団体等が今年3月から断続的にストライキを実施。その後、7月に同制度の関連法案は廃案となった。なお、10月にも農家がアルゼンチン政府の農業政策に抗議するストライキを6日間行った。また、9月中旬から、干ばつによる生産減少の影響を見極めるため輸出承認手続きを停止しており、手続きの再開時期は未定である。

ケ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が非常に少なかったことや、生育時に天候に恵まれたことなどから、前年度より11.6百万トン増加（83.5%）し、25.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.1百万トン増加（8.5%）し、14.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから7.8百万トン増加（625.8%）し、9.9百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は2.6百万トン増加（169.9%）し4.1百万トンとなり、期末在庫率は18.0%（7.1ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

ウクライナの2008/09年度の収穫は終了した。食用品質の小麦は、2007/08年度は小麦生産量全体の40%であったが、2008/09年度は11%にまで低下する見込みである。

2009/10年度の冬小麦は、12月上旬まで気温が高く生長が続いていた。12月中旬に全国的に気温が下がり、冬季の休眠に入った。

【貿易情報】2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

（世界の輸出量シェア7位（2008/09年度 3.5%）

表－9 アルゼンチンの小麦需給（市場年度：12月～翌年11月）
（単位：百万トン）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.2	16.3	9.5 (10.5)	▲ 1.0	▲ 41.7
消費量	4.9	5.4	5.5 (4.9)	-	0.9
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
輸出量	10.5	10.5	4.3 (6.0)	▲ 1.0	▲ 59.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	0.3	0.7	0.4 (0.5)	-	▲ 41.2
期末在庫率	2.0%	4.3%	4.1% (4.3%)	0.4	▲ 0.2

収穫面積(百万ha)	5.29	5.76	4.20 (…)	-	▲ 27.1
単収(t/ha)	2.88	2.83	2.26 (…)	▲ 0.24	▲ 20.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「Grain: World Markets and Trade」、

「World Agricultural Production」

IGC「Grain Market Report (27 November 2008)」

（世界の輸出量シェア6位（2008/09年度 7.3%）

表－10 ウクライナの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）
（単位：百万トン）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.0	13.9	25.5 (25.0)	-	83.5
消費量	11.7	12.9	14.0 (…)	-	8.5
うち飼料用	2.1	3.1	4.0 (…)	-	29.0
輸出量	3.4	1.2	9.0 (8.5)	-	625.8
輸入量	0.1	0.3	0.1 (0.1)	-	▲ 69.7
期末在庫量	1.4	1.5	4.1 (0.0)	-	169.9
期末在庫率	9.5%	10.8%	18.0% (…)	-	7.1

収穫面積(百万ha)	5.50	5.95	7.00 (…)	-	17.6
単収(t/ha)	2.55	2.34	3.64 (…)	-	55.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「Grain: World Markets and Trade」、

「World Agricultural Production」

IGC「Grain Market Report (27 November 2008)」